



「一般社団法人「はつぷ葉山つながりproject」が活動する葉山は、山に囲まれた海辺の町。大の恵みを受けて旬の食材が取れる。」

6年前、健康に自分らしく暮らしたいシニアやそのご家族をサポートするために、大橋マキさんが設立した「はつぷ（葉山つながりproject）」以来、自然あふれる葉山町で、さまざまな活動が続いています。今年、コロナ禍により、はつぷもその活動を変えることを余儀なくされました。しかし、そこで育まれた新たなプロジェクトは、やがて人と人とを結び、温かなコミュニティへと育つてゆくことでしょう。そこに至る軌跡と未来の可能性を、大橋さんが綴ります。

大橋マキ ◎文 一般社団法人はつぷ代表・アロマセラピスト

自然を求めて葉山へ 地域課題との出会い

私の暮らしている神奈川県葉山町は、緑豊かな山々が相模湾を抱くように佇む小さな海辺の町です。外出自粛生活中も、海や山の空気に救われ、あらためて自然のありがたみが身にしました。今回のコロナショックで、日常生活はもちろんのこと、葉山で主宰している「一般社団法人「はつぷ（葉山つながりproject）」でも、ポストコロナの在り方を探っているところです。「はつぷ」は、葉山町を拠点に、ガーデニングや里山散策、自生植物を活用した手仕事などを通じて多世代交流している団体です。医療・介護の専門家や植物に精通するセラピスト、介護当事者、農業や食を得意とする人たちまで多彩なメンバーが集い、それぞれの視点やスキル、感性が活動を育ててい

ます。「幸せなおばあちゃんになるには、どうすればいいだろう？」
「はつぷ」を立ち上げたのは私自身の素朴な疑問がきっかけでした。葉山町で「介護のためのアロマセラピー講座」を受け持つようになって3年が過ぎた頃のことです。講座を通じて生の声に触れ、地域の高齢者福祉の課題について知ることになりました。講座では幅広い世代の方にアロマセラピーを身近に感じていただけたものの、同時に確信に変わったことがあります。それは、この町のご高齢者を本当の意味で元気づけるのは、瓶に入った精油ではない、ということ。足もとにある自然を暮らしに取り入れる「営み」を通じて、季節の香りに触れ、心が潤い、身体が整い、生きる力が湧きあがってくるのだと気づきました。

実際、葉山には四季折々、旬の食材を美味しくいただく食文化が息づいています。そこで、講座に参加くださった人たちに呼びかけて、畑サークルを立ち上げました。土をいじり、収穫した野菜を使って畑のかまどで豚汁をつくり、おにぎりを頬張る。山の景色が広がり、空高くトンビの声が響き渡る……。畑では、あつという間に世代も背景も超えて笑顔が広がりました。土に触れながら、何気ないおしゃべりのなかで介護の悩みや家族のちよつとした困りごとやポロっと出ても、また土にかえっていく。そこに自然があるだけで空気が大らかになります。

介護や高齢者福祉の問題にかかわらず、この地域のさまざまな課題は、この土地の自然の力を借りながら解決していけるかもしれない。活動で得た実感でした。仲間たちの想いは膨らみ、それぞれが専門家としてスキルを身につけ、任意団体として6年の活動を経



Profile

大橋マキさん

おおはしまき 英国IFA認定アロマセラピスト。アロマ空間デザイナー。アナウンサーとして活動後、アロマセラピストに転身、病院や介護施設でアロマトリートメントを行う。現在は、夫と子ども2人と神奈川県葉山に在住。「一般社団法人はつぷ（葉山つながりproject）」を主催し、すべての世代がつながり、幸せに暮らせる生き方を模索中。季節の香りを調査し、aromamora アロマミストも販売している。夏には、アロマミストshimmerをリリース予定。http://www.aromamora.jp/

葉山から広がる 癒しのコミュニティ

コロナショックを超え、
世代を超えて。



葉山の八重桜



一般社団法人はつぷ（葉山つながりproject）のセラピストたち。右から萩原美智さん、大橋マキさん、丸野睦美さん、新井裕里さん。